



全校研究だより

第6号
令和2年10月29日(木)
青森県立青森第二養護学校 研修部

授業者へのインタビュー特集

前回の研究日で視聴することができなかった授業者へのインタビューを「Q&A」でまとめました。(◎の太字の部分は、インタビュアーである文部科学省調査官が授業者の回答をまとめた内容です。)



Q 日頃礼儀についてどのように考えているか。

A 子どもたちにとって挨拶が身近であると思うが、形だけになってしまっていて、「ありがとう。」や「ごめん。」は言えば終わりというのが日常の中でよく見られる。相手のことを思って言い方を考え、気持ちを込めてしっかり伝えること、気持ちと行動が繋がるようにすることが本当の礼儀であると感じている。

Q 日頃礼儀について、どのように指導しているか。

A 「ありがとう。」や「ごめんね。」はしっかりと相手のことを考えて伝えること、返事や朝学校に来たらまずは挨拶をすること、校外へ出かけたときには訪問先の方にしっかりとお礼をして帰って来ることなどを意識して指導している。

Q 礼儀についての指導で課題になるところは。

A 気持ちに余裕があるときはそこまで意識を向けることができるが、自分自身のことばかり考えてしまっているなどどうしてもそっけなくなってしまうことや、こちら側が「挨拶をした方がいいのではないか。」と言って気付くことがあり、常にできる訳ではない。本当に身に付き、常にできるところまで成長してほしいと思っているが、まだそこまでは至っていない。

Q 本授業において、児童に考えさせたかったところは。

A 形だけではなく、心を込めた礼儀について、話し合う活動を通して改めて考えさせたいと思った。



【グループでの話し合いの様子】

Q 授業において、教材をどのように活用されたか。

A 体験的な活動を通して、気持ちを考えた上で行動に移せるものとして理解し、活用した。

Q 体験的な活動を行うことにはどのような良さがあるか。

A 形や想像だけではなく、実際に自分が動いて感じることでより深まる、自分自身の思いと繋がる、深まりがあるように感じる。

Q 体験的な学習は内容項目によって効果に違いがあるか。

A 違うと考える。挨拶や相互理解などの内容項目は体験的な活動で伝えることで、より一層深まりが増すのではないかと思う。

Q 本学習において、児童の体験的学習の効果は。

A 形だけではなく自分の中での「こんにちは。」をととてもよく考えて行動に移すことができていたと思う。一人一人「ただいま。」の言い方が異なっていた。最初に学んだことが最後の「ただいま。」に繋がっていたと感じた。



【教師と代表児童による役割演技の様子】



【代表児童2名による役割演技の様子】



【ペアになり、役割を交代しながら演技を行う様子】



【本時の学習を踏まえ、即興で演技を行う様子】

Q 子供たちの応答が一人一人違うのはなぜだと感じるか。

A 彼らなりに自分自身に返し、自分の中で考え、それを行動に移しているため。同じ言葉一つでも、一人一人感じ方が違うため、表れ方も違うのではないかと。

◎「おじいさんのこんにちは」という教材を使った学習ではあったが、子供たちは自分事として礼儀について考えていた。ただ演技をするのではなく、「自分だったら」という視点でしっかりと考えながら学んでいた。

Q 児童が書き込んでいたノートについて。

A 学級では「心のノート」と呼んでいる。自分自身を振り返る際に活用し、自己評価を記入するようにしている。

Q 児童の成長の様子がノートから読み取れるか。

A 同じ内容項目のときに、前回の考え方と今回の考え方の違いをノートから読み取ることができる。また、子供たちも自分で読み返し、振り返ることができる。書く量や振り返り方が変わってきていると感じる。

◎子供たちの学習状況の記録にもなり、積み重ねることで成長の様子も見られる。今後、道徳科の評価は学習状況と道徳性に関わる成長の様子を見ていくことが求められていることから、ポートフォリオの形で記録を残すことは効果的である。

◎今回の道徳教育アーカイブで取り上げられている「礼儀」の内容項目について「小・中学習指導要領解説 特別の教科道徳」に概要と指導の要点が示されています。指導の要点は、「第1学年及び第2学年」、「第3学年及び第4学年」等、学年段階ごとに、生活技術の習熟度や発達の段階などを考慮して示されており、本校の児童生徒を指導していく上でも参考となります。例えば、「第1学年及び第2学年」の指導の要点には、「具体的な振る舞い方を身に付けることを通して明るく接することのできる児童を育てることが大切」「具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせることが重要」等と示されています。これは日々私たちが指導上意識して取り組んでいることと重なるのではないのでしょうか。HPには全ての内容項目の概要と指導の要点が示されていますので、授業や道徳授業PDCAシート作成等の際にぜひ参考してみてください。

研究係より

この授業は「体験的な学習を通して『礼儀』について多面的・多角的に学ぶこと」がポイントです。役割演技では、登場人物双方の気持ちを考えられるようにペアで役割を交代していました。また、代表児童が行う場面と一斉に行う場面があり、さまざまなパターンで体験的に学ぶための工夫がされていたことが分かったと思います。今回の内容は、本校の児童生徒には難しいと感じた先生がいるかもしれません。今後、授業映像から学んだ授業づくりの工夫を、本校児童生徒の指導にどう反映させるかを考えていく必要があります。道徳授業PDCAシートの作成と共有によって授業づくりの工夫を探るとともに、第2回校内研修会では毛内先生からご助言をいただきながら、知的特別支援学校における内面の育ちを促す道徳科の授業を目指していきましょう。